

RCC (広島)



56k | 300k

## 「あいりちゃん」事件公判前に父親が語った心境

3年前に広島市安芸区で小学1年生の木下あいりちゃんが殺害された事件の控訴審が20日、開かれます。20日はあいりちゃんの父親が意見を述べることになっていますが、その意見陳述の前に心境を語ってくれました。

「誕生日の日はささやかに誕生パーティーをしたんですね。亡くなっているんですが、家族は4人だっというふうに思っているんですね」(遺族 木下建一さん)

先月、10回目の誕生日を迎えるはずだった木下あいりちゃん…。3年前の11月に命を奪われました。

この事件ではペルー人のトレス・ヤギ被告が下校途中だった当時、小学1年生のあいりちゃんにわいせつな行為をしたうえ、首を絞めて殺害。遺体を段ボール箱に入れて空き地に放置したとして殺人などの罪に問われています。

一審で検察側は死刑を求刑しましたが、広島地裁は被害者が一人であることを理由にトレス被告に無期懲役の判決を言い渡しました。

検察側は量刑不当だとして控訴。トレス被告も殺意やわいせつ目的を認定した判決を不服として控訴しました。控訴審はこれまでに3回開かれました。

「彼が日本語で謝罪を前回したんですけど、これについて日本語で謝罪しようともスペイン語で謝罪しようともわたしには本当に謝罪しているようには思えません。

」(遺族 木下建一さん)

トレス被告は「悪魔の声に支配された」との弁解を繰り返し、1審と同じく殺意とわいせつ目的を否認しました。

また検察官からペルーでの幼い女の子に対する性犯罪歴について聞かれると黙秘を貫きました。ペルーでの性犯罪歴については検察側が資料を証拠として採用するよう求めています。

一方、弁護士側は「資料は日付などの記載が正確さに欠けているとしか思えない」また、「前歴は前科と違って有罪判決が確定していないものだ」として証拠採用に反対しています。

「やってなければやってないって言えるのかもしれませんが、それさえも言えないというのは、やましい心があるから黙秘を使うんじゃないかと…」(遺族 木下建一さん)

20日の控訴審では建一さんが意見陳述を行います。法廷で遺族が訴える最後の機会となりそうです。

「ヤギ被告が事件の真実を話してくれることを期待して今まで傍聴してきたんですけど、いまだに彼の口から真実を聞くことができなかったという悔しい思いですね、それと性犯罪がいかに残忍、残酷かを話して、今回の裁判では裁判所が過去の判例を参考にすることなく、わたしたち遺族が望んでいる極刑を下していただけるような内容を読みたいと思っています。ヤギ被告が心の底から反省できるようにですね、真摯な態度で聞いてもらいたなとは思ってますね」(遺族 木下建一さん)

[19日20時43分更新]